

校長室だより

共学共高

第
80
号

令和7年5月29日発行

発行責任者

白梅学園高等学校長

武内 彰

体育祭～燃えた！全校行事 part 1

5月28日（水）、今年度はじめての全校行事となる体育祭が開催された。前日からの雨天のため、開催が危ぶまれたが、午前6時の段階で降雨はなく、グラウンドコンディションも問題なかったため、開催することができた。前日から校長室に掲げた「てるてる坊主」に合掌！

例年と違うな、と思った光景がある。開会式の前に、いくつかのクラスが円陣を組んで気合を入れているのである。それだけ体育祭にかける思いが強いのだろうか。

開会式のために全校生徒が整列する。放送部の司会担当の生徒が「静かにしてください」と一言アナウンスすると、全校生徒の話声がスーッと静まり返る。さすが白梅生である。生徒会長のSさんから開会宣言がなされると大きな拍手が起きる。体育委員長Dさんによる力強い選手宣誓、体育副委員長Iさんによる競技諸注意と続いて、いよいよプログラムの開始である。

プログラム1番は、恒例の準備体操だ。恒例のとは、どういうことかと言うと、ダンス部が全校生徒のために考えた準備体操を全員で行うのである。体育委員以外の生徒にとっては、初見となるので、その場で朝礼台の上にいるダンス部部長のMさんのお手本に合わせて準備体操を行うのである。今年は、前半に妖怪ウォッチの曲に合わせて、後半はジャンボリーミッキーの曲に合わせて行われた。いつも感心するのだが、みんな本当に順応性が高い。私はいつも苦勞していた。今回はある事情があって、校長室だよりのための写真撮影に専念したが。御来賓の方からも「よく考えるなあ」とのお声が漏れる。



その後、100m、50m ハードルと硬派の（？）種目が続く。速い人もそうでない人も一生

懸命である。「どんなに遅い人でも大丈夫。私より数倍は早いから。」と心の中で思いながら拍手を送る。時折、保護者席から感嘆の声が上がるほど、恐ろしく速い生徒がいる。陸上競技部と思われる。走り方が違う。うらやましい限りである。



3年綱引きの予選も壮絶な戦いが繰り広げられている。40秒間でなかなか勝敗が明らかにならない接戦もあれば、スタートのピストル音とともに、一気に全員が倒れこむ試合もある。なかなか盛り上がる種目である。どのクラスが決勝に進んだのだろうか。



続いて、2年⇒1年⇒3年の順に成長ムカデリレーである。成長とは、スタート直後は3人のムカデだが、グラウンドを回るたびに生徒の数が増えて、最終的には10人のムカデとなるのだ。工夫した掛け声を言いながら、リズムよく進んでいくことが大切だ。ちなみに、主な掛け声は「1, 2, 3, 4、ア〇〇〇〇（某大手警備会社の名前）」「ナイトウアキコ、ナイトウアキコ」「エッホ、エッホ」であった。ちょっとしたことでバランスを崩しやすいので、急ぐことよりもミスをしないことを優先する進み方を選択するチームもある。3年生のレースでは、恐ろしいくらい早くゴールしたクラスから、かなり時間を要してしまったクラスまである。最後のクラスがゴールする前に、すでにゴールしていたクラスの生徒たちがみんなで拍手をしている姿が印象的であった。



2年台風の目は、3人で棒を横にもって、コーンを回りながら走り、次の3人につないでいく種目だ。まさしくチームの総合力が問われる。コーンを回るときに棒を握る位置をインコース側にずらして回転しやすくする工夫をしているクラスがあった。理にかなった工夫である。このチームが1位でゴールしていたと思う。



1年大縄跳びは、連続して跳ぶのに苦労しているクラスが多かったようだ。20回を超える場面があまりみられなかった気がする。おそらく練習の時の方がより多く飛べたのではないだろうか。



借り物、借り人競争もすべての学年でレースが行われる。今年是有志の生徒を募って、さまざまな仮装をしたり、グッズを身に付けたりして、生徒席の前に立って待機している。2人が指示書を見て、お目当ての生徒を見つけ、手をつなぐ代わりにフラフープをもって、3人でゴールする早さを競う。「赤い帽子」と「キラキラした赤い帽子」の違いに苦労して、時間のかかったペアもいる。なかなか、難しい。しかし、生徒たちは楽しそうに取り組んで

いる。



午前の部の最終種目は、3年生ダンス競技である。上下白の衣装をまとい、水色の布をもった3年生たちの創作ダンスである。踊る前に、生徒が紹介のアナウンスをしているときに、私は御来賓の対応をしていたので、説明を聞き逃してしまったが、優雅で綺麗な流れのダンスで保護者席からも大きな拍手が送られていた。参加人数が多いので仕上げるのは大変だったと思うが、素敵な演技であった。(つづく)



(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す）